



馬路村魚梁瀬丸山公園にて。2024年10月19日 (撮影/田中光一)

山田コレクションをめぐる和解が成立

日本鉄道保存協会顧問 菅 建彦

山田コレクションをめぐる訴訟については、2023年度総会と2024年度総会で弁護士から説明して頂きました。その後裁判所の勧めで和解に向けた協議をすすめた結果、本年3月26日に和解が成立しました。その内容を要約すると、

1. 山田コレクション車両群のうち9615号および美唄4号蒸気機関車各1両を原告の所有とし、原告の費用で現在の保管場所から搬出し、その後保管場所を原状復帰する。
2. 原告が所有する山田コレクション保管場所の土地建物を無償で被告に譲渡する。
3. 以上を2027(令和9)年3月31日までに実施する。
というものです。

山田コレクションは、北海道江別市の元市議山田建典氏が私財を投じて蒐集した蒸気機関車、客車など10数両の車両群で、4110形や初期の9600形など、明治末期から大正期にかけて製造された文化財級の蒸気機関車を含み、個人の蒐集品としては日本一の規模と内容を誇るものです。

その後山田氏は財務上の困難に直面し、そのうえ病魔に襲われました。

2010年、江別市は山田氏が滞納した固定資産税を徴収するために、この車両群をネット競売にかけようとしたため、コレクションは散逸の危機に瀕しました。これを知った当協会は病床の山田氏と話し合い、山田氏に代わって滞納固定資産税を納める代わりに、コレクションを無償で当協会に譲

渡することに同意してもらい、江別市と折衝して、山田氏の滞納固定資産税を一括納入すればネット競売にはかけないことを確認しました。4350万円にのぼる滞納額を工面する方法を模索していたところ、さる篤志家がこの金額を当協会に寄付してくださることになり、2011(平成23)年2月に江別市に滞納した税を納め、山田氏から無償で車両群を譲渡してもらい、以後「山田コレクション」は当協会が所有しています。

今回の訴訟は、この資金を提供してくれた篤志家ご本人が、「山田コレクションは自分が山田氏から買い取ったものだ」と主張して同コレクションの所有権確認を求めてきたものですが、以上の経緯を詳しく説明した結果、当協会の主張は裁判所の理解を得られたと考えます。ただ、保管場所の土地建物を無償で得られる実利は大きいので、和解に踏み切った訳です。

法人格を持たない当協会は、土地建物の譲渡を受けても所有権の保存登記をすることが出来ず、また先方の譲渡所得税を免税にすることもできません。代表幹事団体である公益社団法人横浜歴史資産調査会(内閣府指定・免税団体)が当協会に代わって土地建物を所有してくださることになり、併せて山田コレクションも譲り受けて保存活用して頂く方向で調整中です。本件に関して格別のお世話になった公益社団法人横浜歴史資産調査会、尾谷恒治、松本武の両弁護士に深甚の謝意を表します。また、2015年に逝去された山田建典氏のご冥福を改めてお祈りします。

山田コレクションを守り、生かす

当協会の代表幹事団体が、財団法人日本ナショナルトラストだった平成12年(2000年)頃から関わってきた通称「山田コレクション」は、多くの皆さまのお陰で保存に至りました。発端は、当協会関係者である3名の鉄道愛好家の熱い思い。しかし、フタを開けたら分不相応で難物でしたが、長年、現況調査、保存活用体制の整備などに挑みました。近年、幸い地元江別市や市民の協力体制が芽生え、一気に事業が進展しました。苦節約20年。これを礎に踏ん張ります。(事務局長 米山淳一)



—山田コレクションと煉瓦へ想いを馳せて—

江別煉鉄の会

●歩み

私たち江別煉鉄の会は、えべつ1/1会を前身として、令和5年8月に発足しました。

えべつ1/1会は、「1/1の実車—山田コレクション—を走らせる」を合言葉に、その保存と活用に取り組んできましたが、鉄道事業と深い関りがあり、江別のアイデンティティでもある煉瓦産業を見つめ直し、歴史と産業と文化の三位一体となったまちづくりに貢献しようと、煉瓦の「煉」と鉄道の「鉄」を組み合わせ、江別煉鉄の会としてリスタートしたところです。

煉瓦の材料である粘土のように粘り強く、煉瓦のように固い結束力、鉄路のようにどこまでも続く真っ直ぐな想いで、これからの江別の未来を描いていこうと活動に励みつつあります。

●動き

一昨年の発足時にまず手掛けたのは、山田コレクションを北海道の宝として位置付けていくことでした。このため、北海道のダイナミックな近代化ストーリーを展開している、「日本遺産 北の産業革命—炭鉄港」に参画し、その構成文化財とするため、行政や日本鉄道保存協会とともに炭鉄港推進協議会加入に奔走しました。江別における煉瓦と鉄道と石炭との密接な関りを洗い出し、その中心的存在である炭鉄道遺産群として、山田コレクションを位置づけました。

そして、令和6年6月に山田コレクションが日本遺産炭鉄港の構成文化財に認定されたことを記念して、日本鉄道保存協



山田コレクションの世界展(2025年)

会のご指導をいただき、これまで2回の山田コレクション展を開催したほか、炭鉄港関連の産業遺産ツアーガイドを務めるなど、少しずつではありますが、山田コレクションや煉瓦にスポットライトを当てつつあります。

●山田コレクション保管庫路盤整備概要報告●

今回は2024年10月と2025年4月の2回に分けて路盤整備を行いました。2024年9月に現地調査、路盤整備は10月にL棟、今年4月R棟を行いました。L棟については特に悪い、2号機(2120)、夕張号機及び美唄6号機の路盤整備をする事に決め着手しました。

作業は小鹿さん(JR北OB)の応援を頂き、暗い、狭い、暑苦しい等悪環境の中で、レール下の土等を掻き出し、そこに砂利を入れ、生コンを流す作業です。汗を流しながら、ただひたすら行い完了しました。

今年6月に施工後の状態チェックを行い、コンクリートも固まっており問題ない事を確認し、ホッとしています。応援いただきました小鹿さまに感謝申し上げます。(当協会顧問 高橋一宇)



ぶらぶらまち歩きin江別(2024年) 提供:炭鉄の記憶推進事業団

2024年度馬路村(高知県)総会・見学会開催報告

当協会の設立初期から正会員として加盟している馬路村(魚梁瀬森林鉄道)と、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会のご協力のもと、総会、講演会、見学会を開催させていただきました。馬路村は、かつて秋田杉、吉野杉と並ぶ日本の三大杉美林で、魚梁瀬杉の産地として有名です。明治末から昭和30年初頭まで、森林鉄道が魚梁瀬杉を山奥から太平洋沿いの田野や奈半利貯木場まで運んでいました。

廃線後は撤去が進みましたが、現在でも軌道跡、橋梁、トンネルなど当時の遺構が保存され、多くが国の重要文化財に指定されています。また近年は村おこしとして柚子の栽培、加工販売に取り組み、今では「ゆずの村 馬路村」として全国的に知られ、森林鉄道から柚子へのストーリーは、日本遺産「ゆずとりんてつ 森林鉄道から日本一のゆずロードへ」として地域の活性化に寄与しています。

講演会は、馬路村のゆず、森林鉄道保存にかかわっていらっしゃる方々のお話でとても興味深いものでした。また会場には、森林鉄道が活躍していた時代の貴重な写真を展示していただきました。翌日の見学会では鉄道遺産の見学と公園で動態保存されている機関車の体験運転が大好評でした。

■スケジュール

●10月18日(金) 総会・講演会

14:30 受付開始 馬路村集会センター「うまなび」

15:00 総会開始

・主催者挨拶／交通協会顧問・日本鉄道保存協会顧問
菅 建彦

・代表幹事団体挨拶／横浜歴史資産調査会常務理事
米山淳一

・来賓挨拶／馬路村村長 山崎 出

・総会議事進行

16:15 講演会開始



◀野村式L69機関車を先頭に4台連結しての運行



▼久木隧道跡



谷村式機関車。運転体験もできる



会場は木材を多用した集会センター「うまなび」



交流会では、「魚梁瀬ふるさと劇団杉ぼっくり」による「森林鉄道物語」が上演されました



馬路村村長 山崎 出さん



馬路村農業協同組合前組合長 東谷望史さん



中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局長 中嶋健次さん



集落活動センターやなせ 集落支援員 日浦数弘さん

開催地報告(1)「馬路村の紹介」ゆずロードへ

馬路村農業協同組合前組合長 東谷望史

開催地報告(2)「森林鉄道遺産を生かした地域づくり」

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会事務局長 中嶋健次

開催地報告(3)「馬路村の森林鉄道」活動報告

集落活動センターやなせ 集落支援員 日浦数弘

17:30 総括・閉会挨拶

・日本鉄道保存協会顧問 花上嘉成

19:00 交流会(うまじ温泉)

●10月19日(土)

9:00 見学会スタート

魚梁瀬森林鉄道廃線跡 河口隧道～旧久木隧道～犬吠橋～魚梁瀬ダム湖～丸山公園(復元・森林鉄道運転・乗車体験&昼食)～五味隧道～明神口橋・オオムカエ隧道～

15:00 道の駅田野駅屋(ごめん・なはり線 田野駅)解散

2025年度総会・見学会開催予告

2025年度の総会・見学会は、青森県七戸町で開催予定です。かつて七戸町と野辺地町の20.9kmを南部縦貫鉄道が結んでいました。鉄道営業は1997(平成9)年に休止、2002(平成14)年に廃止になりました。現在は、会員の一般社団法人南部縦貫レールバス愛好会が旧七戸町駅構内で保存活動を行っています。愛好会の活動を支援してくださっている七戸町の多大なるご協力を得て、総会・講演会と愛好会が保存するレールバスはじめ車両たち、駅構内の見学会を開催します。

●日程：10月4日(土)・5日(日)

●総会宿泊：七戸町ふれあいセンター(七戸中央公園内)

最寄り駅は東北新幹線七戸十和田駅。駅集合の予定です。詳細につきましては、8月上旬頃にお知らせの予定です。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。



▲構内すべての線路のPC枕木化作業が完了し、1、2番線とも車両が入線できるように



▲夕暮れの機関庫



▲廃線印、廃線印帳などグッズの収益は整備財源に



▲レールバス キハ101とキハ102

我が国の鉄道150年の経営と技術の歴史書『鉄道150年史』のご紹介

我が国の鉄道は、2022年に1872年の創業から150年目の節目を迎えた。創業から50年目には鉄道省により『日本鉄道史』が、また、100年目には国鉄により『日本国有鉄道百年史』が刊行された。これら官鉄・国鉄に係る歴史とは別に、民営鉄道各社の社史も数多くみられ、公営鉄道についても各自治体の歴史の一部として記録されてきた。

『鉄道百五十年史』は、初めての総合鉄道史として、官鉄・国鉄、JR、民営鉄道、公営鉄道や鉄道遺産保存の全てにわたる我が国の鉄道150年の経営と技術の歴史を記述した大型企画である。

- ◆制作・発行：公益財団法人交通協力会
- ◆販売：交通新聞社
- ◆サイズ／判型：縦297mm×横210mm
- ◆価格：100,000円(税込) 本冊5巻+資料編箱入り



※写真はイメージです

「あしおトロッコ館 ～知られざる鉄道の博物館～」開館のお知らせ

これまで古河足尾歴史館とわたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホームで活動してきたあしおトロッコ館が鉄道博物館を開館しました。毎月土・日・祝日のみ開館

旧古河足尾歴史館の建物全体に、あしおトロッコ館の展示を拡大し、野外展示場の保存鉄道「足尾ガソリン軌道トロッコ本線」では、足尾の街中を走っていたガソリンカーや元海軍の加藤製作所製の内燃機関車が牽引するトロッコ列車を運行し、入館者は無料で乗車できます。新たに動態保存車として元立山砂防工事専用軌道の酒井工作所製5t機が加わり、夢のKATO&SAKAI共演も見られます。

なお、わたらせ渓谷鐵道足尾駅の保存車両は、外観だけはいつでも無料で見学できます。

■あしおトロッコ館本館

開館日：毎月の土・日・祝日 開館時間：10～16時

入館料：大人500円(大学生以上) 子供200円(高校生以下)

※未就学児無料

アクセス：わたらせ渓谷鐵道の通洞駅下車すぐ。または日光市営バス足尾JR日光駅線の銅山観光入口下車すぐ



◀足尾駅の保存車両

▶足尾ガソリン軌道トロッコ本線のガソリンカー



■日本鉄道保存協会 会報 2025年6月号 編集・発行／日本鉄道保存協会
事務局／〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会内
TEL・FAX／045-651-1730 MAIL／info@rpsj.jp
ホームページ <http://www.rpsj.jp/>